

湯沢・雄勝 伝統芸能と 美酒の里 コース

川連漆器

両関酒造

西馬音内 盆踊り会館

黒沢家住宅

川連漆器

川連漆器は、今から800年前農民の内職として武具の漆塗りから始まったとされています。産業の基盤がつくられたのは約400年前で、日用雑器としてお椀作りが始まったことが記録に残っています。この流れで今も生産の6割が椀類ですが、小物から大物、丸物から角物まで何でも作れる器用な産地として名高く、箸から家具まで幅広く漆器製品を生産しています。

荒挽き(阿部博氏宅)

木取りされたブロック状の木片をろくろに取り付け、外側を荒く挽いて内側をくり抜きます。

下地塗り・中塗り・本塗り(佐藤商事)

下地塗りは、木地の凹凸をなくし木地に漆を吸わせて強度を増します。中塗りは塗りの強度をますために生漆の入った漆で塗ります。本塗りは、塗りの最後の工程で、色々な色漆で仕上げていきます。なお、下地塗り・中塗りのあとには塗りの凹凸をさらに研ぎ上げる下地研ぎ・中研ぎの工程が入ります。

【国伝統的工芸品】



両関酒造

両関酒造の本館は、大正12(1923)年の両関酒造全盛期に事務所併用住宅として建築されました。伝統的な町家形式の意匠による建物で、大屋根の妻入部分が事務所となり、接続する平入部分が住宅部分となります。繊細な格子が付けられた窓と妻部分にみられる和小屋の骨組みがとてもきれいです。また1号から4号の酒蔵はすべて土蔵造で屋根、壁とも漆喰仕上げとなり、大屋根でおおわれています。

【登録有形文化財】



西馬音内の盆踊

今から400年ほど前に、蔵王権現の境内で踊ったのが最初といえます。踊りや衣装に古い形を残し、踊り衣装は浴衣と古い布切れを接いで縫ったこの夜だけ着る端縫いとはあります。かぶり物も編笠と顔を黒い布ですっぽりと覆い、目だけ出す彦左頭巾があり、亡くなった人を象徴するものといえます。囃子はガンケなど4曲です。

【重要無形民俗文化財】



黒沢家住宅

羽後町西馬音内の中心部にある江戸時代の町家の建築様式を伝える住宅です。黒沢家は代々染物屋を営み屋号を染屋と称し、江戸時代後期には西馬音内村の肝煎をつとめたといわれています。住宅の主屋は、木造一部2階建、切妻造で細長く奥行きのある短冊形の敷地に建っています。主屋は、正面右側1間がトオリ土間で、トオリ治いの前面に4部屋、奥に2部屋をとっています。またトオリの奥には土蔵造りの内蔵が並んで建っています。建築年代は、ダイドコロ付近の梁3本に毎年巻かれた火伏縄によって江戸時代末期と推定されています。

【県有形文化財】

